

迅速・正確な画像診断とリハビリが強み 開業医と基幹病院をつなぐ役割を果たす

—どのような症状の患者さんが多いですか。

酒井 3分の2以上の患者さんが頭痛です。あとは、めまい、しびれなどです。当初は、高齢者の患者さんが多かったのですが、最近は小児の頭痛が増加しています。首や肩からの凝りからくる緊張型頭痛です。そういう患者さんに対してはリハビリも提供します。ちなみに現在の1日のリハビリ患者数は約30人です。

—小児のリハビリというのは珍しいですね。

酒井 取り組んでいるところは少ないと思います。今は、試験的ですがダウン症の小児のリハビリも行っています。理学療法士が専門的なりハビリを行い弱った筋力を鍛えると、体幹がしっかりして日常生活もスムーズに送ることができるようになります。

今、社会全体が介護、高齢者という方向に向っていますが、当院では、障がいを含めた子どものリハビリにも力を入れていきたいと思っています。

—診療で重視しているのはどのようなことですか。

酒井 モットーは「迅速で正確な診断をつける」「すぐに治療方針を明確にする」ことです。脳神経外科を受診する患者さんが求めているのは、頭痛やめまいの原因を知りたいということなのです。すぐにそれを突き止め、早く治療方針を示すことは当院の強みです。

そして、頭痛に関してはとにかく治すこと。ほとんどの患者さんは、MRI検査を行っても異常は出ません。そのなかで頭痛の原因を明らかにして、治療をして結果を出すことが重要です。

—自院の強みはどこにあるとお考えですか。

酒井 画像診断です。私自身の画像診断能力は、勤務医時代から高く評価をいただいていた。地域のクリニックや基幹病院から毎日、多くの患者さんを紹介いただいていることもその表れだと自負しています。

もう1つはリハビリです。患者さんのなかには、どんなにリハビリをしても麻痺が治らず、それでも納得できずに通院されている方がおられます。当院では、患者さんが希望を持っている限り決して諦めません。医療技術は日々進化し、神経科学分野でも新たな治療法が生まれています。当院ではそうした新技術を取り入れ、患者さんに提供しています。



写真の中心が酒井直人院長、左が鈴木義之事務長、右が顧問する加藤宏史税理士

—これからの抱負などをお聞かせください。

酒井 今、基幹病院では人的資源の不足などを背景に、頭痛やめまいの患者さんを診療するのが難しい状況にあります。しかし、そのなかには重大な病気が隠れていることがあり、それを見逃してしまうことも多々ある。そんなことがないように当院では、しっかりと診断し、適切にその振り分けを行う、いうなれば、開業医と基幹病院をつなぐ役割を果たす存在です。

地域の方々だけでなく、基幹病院、他科の開業医から「サカイ脳神経外科に行けばしっかり診断・治療してくれる」と期待されるクリニックになれるように、これからも努めていきたいと考えています。

(平成30年3月27日/本誌編集部 佐々木隆一)